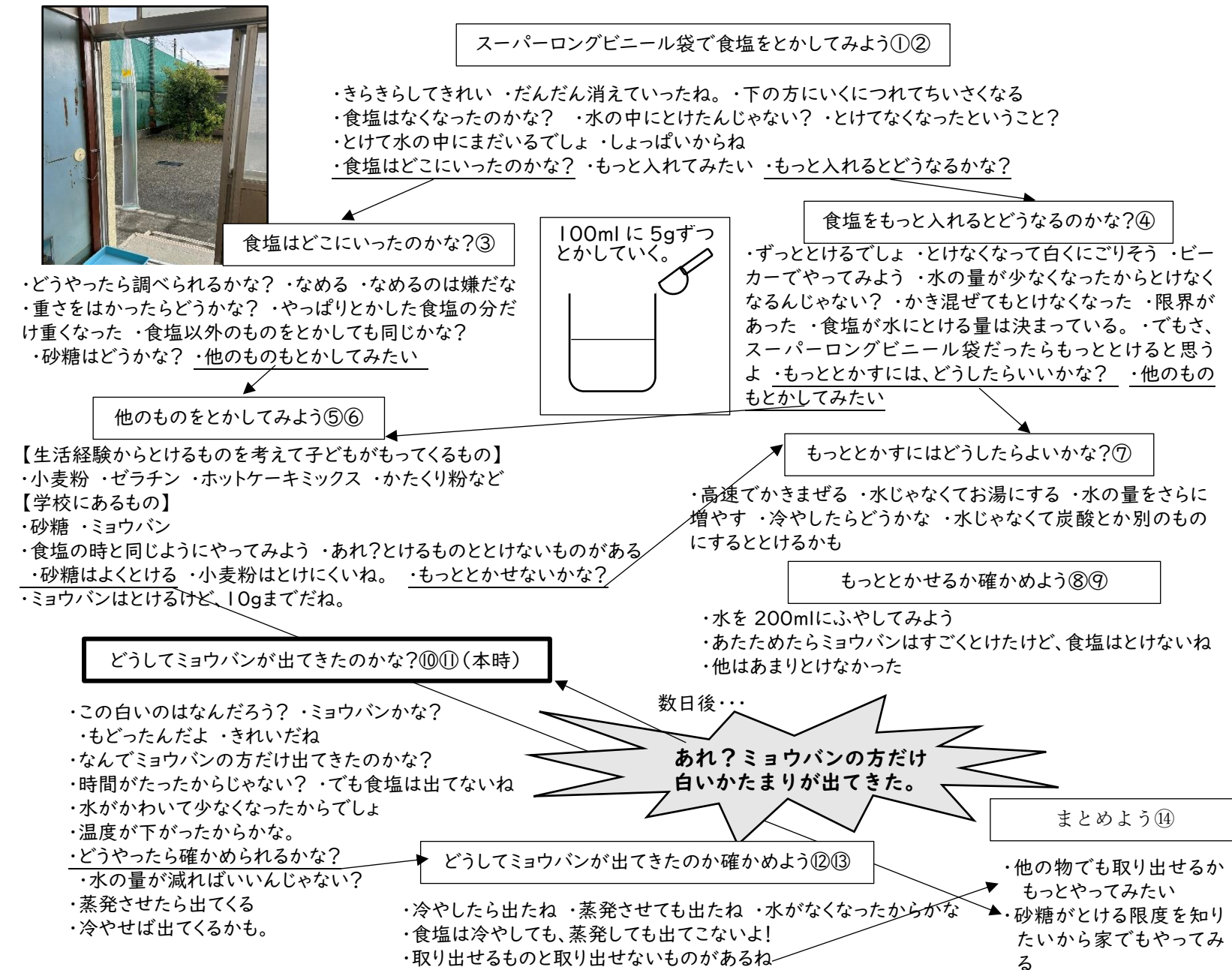


単元名 「もののとけ方」(全 14 時間) 単元構想図

学びのストーリー



願う子どもの姿

- ・自ら問題を見出し、自分の事として問題をとらえ、とことん追究する姿
- ・友達を理解しつつ、自分の思いも大切にしながら、仲間と協働して問題を追究する姿
- ・新しい価値観にふれ、自分の考えを強化させたり、変化させたりしながら自分の考えを再構築する姿

授業デザイン

響き合う
友達の考えと自分の考えを比べながら聴き、小さな気づきや発見を大切にしていこうという雰囲気を大切に話し合う。

手立てや概念
シュリーレン現象を見せながら食塩がとけていく様子を見て「とける」ということに興味を持てるようにする。

自己調整
自分が感じたことや心が動いたことを素直に表現できるように、じっくり観察したり、ノートにメモをとったり、動画を繰り返し見返したりする力をつける。

手立てや概念
目には見えないものをイメージ図で表現し、自分の考えを見える化して友達に自分の考えを工夫して伝えられるようにする。

響き合う
友達の考えを聞いて、自分の考えが変わったか(変容)、変わらなかったか(強化)、さらによりよい考えを見つけることができたかを実感できるように価値づけし、響き合いのよさを実感できるようにする。

手立てや概念
イメージ図や表、クロムブックで撮影したものを根拠にして説明したり、話し合ったりできるように助言する。

手立てや概念
学習の流れが分かる掲示物、実験結果の表の掲示、板書の工夫をすることで、自分の考えをもったり、友達の考えを比べたりできるようにする。

自己調整
物がとける量や様子に着目して条件を制御しながら物のとける規則性を見つけてことができるようにする。

高め合う
前時までの学習をいかしながら「どうしてミョウバンが出てきたのか知りたい」という切実感をもって予想し、「確かめるにはどうしたらよいか」という解決方法を仲間と考え、主体的に問題を解決していけるようにする。

評価規準・評価方法

【知識・技能】
物が水に溶けても水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。

【知識・技能】
物が水に溶ける量には、限度があることを理解している。

【知識・技能】
物の溶け方について、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。

【思考・判断・表現】
物の溶け方について、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。

【知識・技能】
物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うことを理解している。

【主体的に学習に取り組む態度】
物の溶け方についての事象・現象に進んでかわり、粘り強く、友達と関わりながら問題解決しようとしている。

【思考・判断・表現】
物の溶け方について、予想や仮説を基に、解決の方法を予想し、表現するなどして問題解決している。

【知識・技能】
物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと、また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができることを理解している。

【主体的に学習に取り組む態度】
物の溶け方について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

